

学科名	学年	授業のタイトル (科目名)	
工業専門課程 情報処理システム科	2 学年	データベース II	
授業の種類	授業担当者	実務経験	
<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	伊勢本 勝一	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
[実務経歴]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ IT系企業において約30年間、SEとして担当～マネージャに従事</li> <li>・ 主に保険会社の業務システムにおいて、要求分析～システム提案、要件定義～導入、保守を担当</li> <li>・ データベース設計～構築、サーバサイドAP開発～テスト、UNIX系OSのサーバ構築を実施</li> <li>・ 業務改革の要求分析～コンサルテーションを実施</li> </ul>			
単位数 (授業の回数)	時間数	配当時期	必修・選択
2 単位 ( 30 回 )	60 時間	<input type="radio"/> 前期 <input type="radio"/> 後期 <input checked="" type="radio"/> 通年	<input checked="" type="radio"/> 必修 <input type="radio"/> 選択
[授業の目的・ねらい]			
データベースの管理について学ぶ。			
[授業全体の内容の概要]			
SQLの復習 データベースの構築～設計・管理する方法			
[授業終了時の達成課題(到達目標)]			
OracleMasterSilverに合格するレベル			
[準備学習の具体的な内容]			
ORACLEのデータベース入門 (教科書) に記載されているSQL命令の独自学習のため、動作環境を整備し予習復習の実施を行わせる。			
[使用テキスト]	[単位認定の方法及び評価の基準]		
<b>使用テキスト</b> データベース入門から設計/運用の初歩まで Oracleの基本(技術評論社)	定期試験と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・試験の点数は60点以上を合格点とする。 ・全出席日数の4分の3以上の出席が必要。		
<b>参考文献</b> 必要に応じて授業の中で紹介する。	<b>評価基準</b> 定期試験80%、平常点 (出席、講義の参加度) 20%とする。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
1回	イントロダクション, OracleMaster試験概要		
2回	SQL復習 1 (SELECT文, データの扱い)		
3回	SQL復習 2 (SELECT文, 条件とソート)		
4回	SQL復習 3 (ファンクション)		
5回	SQL復習 4 (結合)		

6回	SQL復習 5 (副問い合わせ)
7回	SQL復習 6 (集合演算)
8回	まとめと振り返り
9回	SQL復習 7 (トランザクション)
10回	SQL*Loader演習
11回	SQL復習 8 (ビュー)
12回	SQL復習 9 (表の作成/変更/削除)
13回	設計演習 1
14回	設計演習 2
15回	まとめと振り返り
16回	設計演習 3
17回	DB管理 (管理の概要)
18回	DB管理 (インスタンスの管理)
19回	DB管理 (インスタンスの管理)
20回	DB管理 (ネットワーク)
21回	DB管理 (ネットワーク)
22回	DB管理 (ユーザ, ロール, 権限)
23回	まとめと振り返り
24回	DB管理 (表領域, データファイル)
25回	DB管理 (記憶域)
26回	DB管理 (UNDO)
27回	DB管理 (バックアップとリカバリ)
28回	DB管理 (データベースの監視)
29回	演習
30回	まとめと振り返り